

① 調査での気づき

今では水田の水もため池からとられないため、ため池は荒れ、都会近郊の水田には肥料などの薬品をまいており、水の中には生き物はいない状態になっている。しかし、生産者の収入面や費用対効果を考えると、環境保全のために現在より非効率な従来の方法を強いることはできない。私たちは、まず豊かな生態系があったことを知ることで、それぞれの立場を知ることが必要であると感じた。

② 調査内容で得た知識を応用した授業実施の概要

私の勤務する学校の校区内には依然多くの川が流れ、ため池も多くあり、今でも少し痕跡は残っている。そこで、次の1～6の順に調べ学習を行い、最後にレポートにまとめた。

1. 30年前、60年前の校区写真と現在の校区写真を見比べることで、自分の家や家の周辺にはどんな生き物がいたか予想する。
2. 昔からこの地域に住んでいた人に聞き取り調査をする。(いつ・どこで・何が・どれくらいいた)
3. 昔この地域にいた生き物の中から1つ選び、今はなぜ(いなくなった、いる)のか予想する。
4. 選んだ生き物のスケッチ、体の様子、生活環境、繁殖方法、昔いた場所の分布状況を調べる。
5. 調べたことをもとに選んだ生き物が今(いなくなった、いる)のかを考察し、わかったことに書く。



③ 授業実施時の子どもたちの反応や感想

- ・ヤゴ：ヤゴは今でもずっと生きている。ヤゴは生きている虫を食べているので、食べている虫もずっといるんだと思う。
- ・フナ：環境が悪くなり、フナはいなくなった。だから、ごみを減らしフナが住めるようにしたいと思う。
- ・ホタル：だんだん川やため池が減っているから、ホタルや小さい動物がみんなの前からいなくなっているんだと思う。
- ・メダカ：昔より川の流が速いから住めなくなったと分かった。田や畑がない。池がなくなって家やビルが建った。流がゆるい少し浅めの川がないと住めない。



④ 感想・今後に向けて

子どもたちはやはり大きな生き物(イタチ、タヌキ、ウサギ)に目を向ける子が多く、ため池や川の魚・虫などの目立たない生き物には目を向ける子は少なかった。これは環境保全への関心の薄さと同じだと感じている。一方で、お互いの立場を考えるとという意味で、このような生き物の居場所に自分たちの家が建ち、生き物たちに引っ越してもらったという実感を持つ子もいたので、少しは考えるきっかけになっていれればと願っている。